

(2) 地域公共交通について（地区別テーマ）

① 現状

- ・平成 21 年 3 月「大竹市地域公共交通総合連携計画」を策定
- ・平成 26 年 3 月「第 2 期大竹市地域公共交通総合連携計画」を策定
- ・平成 26 年 11 月「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」が施行
- ・平成 31 年 3 月「大竹市地域公共交通網形成計画」を策定
- ・路線バス（大竹・栗谷線、坂上線）
- ・コミュニティ交通
 - 幹線交通—こいこいバス（収支差△3,633,122 円、収支率 88.3%）
 - 支線交通—三ツ石地区乗合タクシー（△627,534 円、35.4%）
 - ひまわりタクシー（△400,609 円、27.2%）
 - 湯舟のりあいタクシー（△301,196 円、32.6%）
 - 栄ぐるりんタクシー（△631,470 円、28.0%）
 - あじさいタクシー（△138,354 円、24.2%）
- ・タクシー補助—谷和地区タクシー（利用料金 300～500 円/人）
 - 広原地区タクシー（利用料金 300～800 円/人）

大竹・栗谷線バス利用状況

- ・1 日 4 便（土日祝 3 便）松ヶ原農協⇄玖波駅 280 円＋こいこいバス 200 円
松ヶ原農協⇄大竹駅 470 円
- ・令和元年度利用者数 4,060 人（H.30 年度 4,976 人）1 便当り 1.5 人乗車
- ・令和元年度経常経費 14,754,500 円
- ・令和元年度経常収益 1,747,620 円
- ・令和元年度収支差 △13,006,880 円（収支率 11.8%）

② 課題

- ・利用者数の減少
- ・赤字補填の増加

③ 意見交換をしたいこと

- ・利用促進の取り組みについて（運行改善等）
- ・新たな移動手段の研究について

令和元年度地域公共交通事業の収支状況等

1. 地域公共交通事業の収支状況について

(1) 地域コミュニティ交通

ア. こいこいバス（幹線交通）

路線	利用者数 (人)	経常経費 (円)	経常収益 (円)	収支差 (円)	収支率 (%)
こいこいバス	144,083	31,105,946	27,472,824	△3,633,122	88.3

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、3月の利用者数は前年同月と比較して約15%減少しました。
- ・経常収益は前年度とほぼ同程度ですが、経常経費は前年と比較して約5%増加したため、収支率が約5%下がりました。

イ. 支線交通

路線	利用者数 (人)	経常経費 (円)	経常収益 (円)	収支差 (円)	収支率 (%)
三ツ石地区 乗合タクシー	1,514	971,620	344,086	△627,534	35.4
ひまわり タクシー	734	550,600	149,991	△400,609	27.2
湯舟のりあい タクシー	642	447,100	145,904	△301,196	32.6
栄ぐるりん タクシー	982	876,970	245,500	△631,470	28.0
あじさい タクシー	194	182,440	44,086	△138,354	24.2
合計	4,066	3,028,730	929,567	△2,099,163	30.7

ア.イ.の合計利用者数 148,149人

(2) 路線バス（廃止路線代替バス）

路線	利用者数 (人)	経常経費 (円)	経常収益 (円)	収支差 (円)	収支率 (%)
大竹・栗谷線	4,060	14,754,500	1,747,620	△13,006,880	11.8
坂上線	17,368	18,855,072	4,471,120	△14,383,952	23.7
合計	21,428	33,609,572	6,218,740	△27,390,832	18.5

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、3月の利用者数は前年同月と比較して、大竹・栗谷線は約17%減少、坂上線は約20%減少しました。
- ・路線バスの経常収益は前年度と比較して約11%減少、経常経費は前年と比較して約9%増加したため、収支率が約4%下がりました。